# 烏帽子ヶ森

かって営林署の事業所があり繁栄していた横荒。
烏帽子ヶ森は、この横荒の深い谷と伊尾木川の本流との間に屹立する。
加勝林道から見るその山容は、いくつものピークを持ち、どっしりとした、人をよせつけぬ迫力ある独特の雰囲気を纏う山である。

別役
土居
高河山
汗谷向山
西又山
ブナ天然林
人工林の中
鮮やかな緑 風もさわやか
公民館への分岐
アンテナ荘
お官の尾根
西又山直板
境界標
歩きやすい山道 手入もされている
烏帽子のピギャップが 真横に見える
西又山直板
アンテナ右標
川成
三叉の森
横道(細い)
天然林
深い谷
滝(名)
50mくらい
シロヤシオが満開だった
オトクスの谷
霧戸神社 安全を祈願
深い谷
ヤセ尾根 要注意
カッコウ・ツツドリ ルリ・ホトトギス 初夏の鳥の鳴き声が 谷間に心地よく こだまする
名玄市と鳥路村の境 分水嶺
魚瀬瀬
八家谷禊山
大湯倉 ガリー
魚梁瀬中学校記念植樹 2007年標識
ヤブコギ スズタケ
大湯倉
大風が根こそぎ何本も 風で倒れている
シカの群れ 足跡、フン、およびたくさい…
石立山-三嶺-剣山見える
山頂はシカの遊び場
超危険!!
北に巻こうとしたが 崖で大変危険 がろうじて獣道に 助けられた
烏帽子ヶ森 1320m
横荒分岐
1345m
切れ尾根
分かれ道!!
立派な天然ヒノキ
農林省山林局 明治25年の石標 三角点
大ギャップ
大ギャップ
南側の紅林を巻く
ブナ天然林
島三角点
ホオノキ
鹿遊び場
大木
安定した尾根になる
ササ京弱
人工林
南側一望 横荒-八平森-太平洋 伊尾木川に沿った 山々が連なって見える
山頂周辺の林床は ブナの稚樹がたく さん芽生えていて 足の踏み場にこ まるくらい。。
ブナの赤ちゃんは とてもかわいい
小股山
烏帽子ヶ森の特徴 桃ノ木山の大ギャップ。 50mほどの断崖。 特に東のギャップは 当局に北へ行かず 南を探すべし。
桃ノ木山
2020.7.10 NO.107
宝蔵山へ
こわっ
東のギャップを北から 巻いたが、もう二度と 通りたくないと思った。 獣道、ありがとう。

伊尾木川
その昔は丹生川(にゅうがわ)と云われていた。丹は赤を意味し赤松(丹)が多く生えていたための名前と考えられている。入河内はその名残り
年家研究家 門脇勇信さんより

トンネル
滝
天ノ郷へ
揚ヶ谷山⑩より 烏帽子ヶ森を望む
須藤
吊橋 30年豪雨で 流される
伊尾木川
深い山の中 隔絶感がなんだかゾクゾクする
杉と桧が 合わさった木
杉ヶ峯
滝
大除平瀬山
H30西日本豪雨の 土崩壊正面に。 海もみえる。
大猿のコシカケ
険しい歩道
天然林
人工林
R2度周伐
人工林
横野山
大ツガ
国有林石標
926m
横野山
樋ノ谷山
H31年度周伐
人工林
真花の跡 滑車やワイヤー残
倒木多い
崩壊
難
分岐注意
刈払機あると良い
小股山

倒れた大木の上に新しい稚樹が芽ばえている。倒木更新だ。
その現場に出会う時、ふと思う。
朽ちてゆくものの中に死はなくて すべては土に還ってゆく。
自分もやがて死ねば、土に還って ちりさい粒々になって、ほかのものと まざりあって入れ替わっていくことだろう。

関所がある 和泉さんより
影野
まあ行ってみ!!
どっから行こう… もどってこれるやろか… 行ってみた!!
皿ヶ谷

横荒山の象徴-烏帽子ヶ森
加勝林道から眺めるたびにいつかは歩いてみたいと思いながら、その遠さ、険しさに尻ごみをしていた。
特に二つのギャップを越えられるのか…。そんな時背中を押してくれたのが手塚治虫の「冒険という未知の挑戦をせよ!! そうしたらこの世はまったく味気ないということはひとことだった。

小股山
その昔、大変強い法力を持ち、島の人々に篤く崇められていた神職(大夫)の平小股(たいらのおまた)に由来あるの小股は島の諏訪神社に合祀されている。(門脇勇信さんより)

別役へ至る伊尾木川に沿った道路は、差無ダムを過ぎて、さらに深い渓谷の底をくねくねと蛇行しながら進んでゆく。
1300~1400mの山々に囲まれた源流部は、深い谷を刻んだ山また山の世界。
まさに、分け入っても分け入っても青い山の山頭火の句を実感として感じる。
若葉を揺らす風の中、奥山の稜線をすっくと見上げる。遠いなぁ…。
手のひらに汗がにじむ…。

ドキドキ

60年も昔、この山のてっぺんまで地拵えをして苗木を担ぎ上げ鍬を振って木を植えた人たちがいた。
そして、過酷な下刈、除伐、つる切り、間伐と山道を重力に逆らって通った人たちのお陰で今、すくすくと成長を続けている。
木を植えるということは、希望を植えるということだ。

ヘイヘイ

参考文献
「四国の100m峰」